

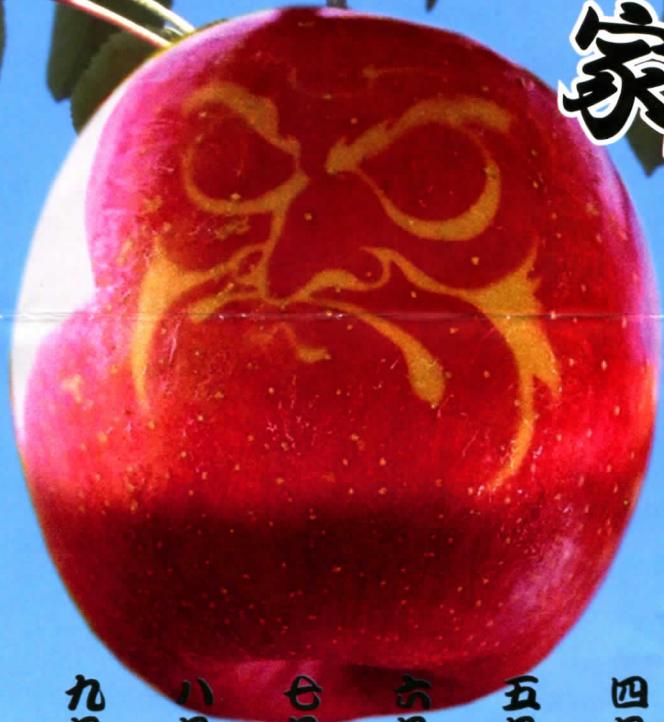
南信州 たるまんこ

お召し上がり方
窓際などに置き
日光に当てて
だるまの顔が
ほんのり紅くなったら
お召し上がりください。
願いが叶うかも!?

立派に育ちました
紅く、美味しく、
決して落ちることなく
決して落ちることなく

お召し上がり方
窓際などに置き
日光に当てて
だるまの顔が
ほんのり紅くなったら
お召し上がりください。
願いが叶うかも!?

立派に育ちました
紅く、美味しく、
決して落ちることなく
決して落ちることなく



雨にもマケズ
風にもマケズ

四月、身を切り裂くような

露の害に耐えまし

五月、花から実へ成長したところに

露が襲いまし

六月、梅雨に入り、時には激しい

雨もありまし

七月、八月とは思えない暑さと雷雨

夜もありまし

八月、実が焦げるほど強い日差し

連日の猛暑

九月、当たると痛い強い雨、枝が折

れ元まし

十月、秋の長雨でも病気にからず

耐えまし

十一月、色々なことがありました

立派に育ちました



不識

無功德

廓然無聖

達磨は約千五百年前、インド南部に位置する香至国（カンチーブラ）で生まれ、国王家第三王子として菩提多羅（ばだいだら）と呼ばれていた。七歳の頃には三藏、仏教經典を読破し卓越した理解力と品性を備え、よく座禅もしていた。その頃香至国を訪れた般若多羅、お釈迦様から二十七代目の法燈を継がれた尊者は菩提多羅を一目で後繼者と認めたが王子の成長を待つにし、その場は立ち去った。その後、香至国王が亡くなり七日間の禪定を修した菩提多羅は、釈迦直伝の仏法をいた般若多羅尊者の弟子となり、はじめて菩提達磨と命名された。般若多羅尊者のことで四十年の修行をうな菩提多羅は仏教の祖、お釈迦様より脈々と伝そられてきた伝灯を受け継ぎ、西天の二十八祖と呼ばれる二十八代の祖師となつた。——先師、般若多羅の逝去後インドでは破仏の思想が蔓延し、故郷インドにも浸潤してきた。達磨は各地でそれの邪教をこそとく論破し異端者を次々と驅逐せしめた。六十七年に及ぶインドの布教を遂げた達磨は、その後中国に渡る。——中國では梁の武帝との同答で、廓然として自由無碍“とか”不識“といった日本に伝わる達磨をめぐる逸話が始まる。葦の葉に乗り揚子江を渡る達磨、北魏洛陽の嵩山少林寺では石室で面壁九年の座禅、座禅の最中仏弟子慧可による腕切の訴、そして達磨が中國の地で説く仏教は、達磨はたびたびの妨害をへり、ついには六度に亘り盛られた毒により座禅のまま絶命した。——こうして中国禪宗の始祖たる達磨大使、円覺大使とも呼ばれる“の生涯は閉じられたが、その教えは妙々相承され臨濟慧昭を宗祖とする臨濟禪を確立するに至つた。——日本の伝来は鎌倉時代建久二年（一一九二年）榮西禪師により伝えられたが、アーリア人である達磨の風貌は巨大な出目、固く引き結ばれた口、濃い髭、頭からすっぽり被った壁の多い朱衣で座禅の三角形容から、火のようだと祟められ俗信の対象となつていった。そのため本来インドの高僧で、敬虔かつ純粋な人々の深甚なる信仰の対象でありながら、日本では仏教のみならず神教の対象としても除々に姿を変えと言つた。——本来達磨さんは、心理の体得者としての名をそのまま負う超俗の人なのです。



だるまりんごを見守る心理の体得者

達磨大師

南信州の豊かな
中央道松川インターより 5分

自然の恵みを受けて育ちました。
ぜひ、この林檎たちに会いに来てください。
そして格別な喜びを味わいください。
まるいち大場農園



合移祈願
家内安全
無病恵災

登録商標：第4964198号
だるまりんご®

縁起のよい絵が隠されたダルマの顔



つがい鶴（眉の部分）

雄雌の鶴が白里の陰影で重なって描かれています



何があっても
落ちなかつた

だるまりんごの利益の一部は
社会福祉に寄付いたします。

お問い合わせ

まるいち大場農園

〒399-3304
長野県下伊那郡松川町大島2487
TEL : 0265-36-2673
FAX : 0265-36-5207

島菊花堂